

平成から令和へ時は流れ、この節目の時期に宇和島市長を拝命しました。就任直後には平成30年7月豪雨が被災し、さらには現在、新型コロナウイルス感染症が拡大するなど、本市はこれまで経験したことのない事態に直面しております。

そして、このような状況においても決して忘れてはならないのは、本市の人口減少問題であり、「将来に渡るまちの担い手たちをいかに育成していくか」が大きな課題であります。いま現在、どんなに素晴らしいまちであったとしても、それを引き継ぐ人たちがいなければ、そのまちは衰退の一途を辿るのです。

故に、本市の大命題は、新型コロナウイルス感染症により厳しい状況に追い込まれている市民の皆さんの生活や産業に対して迅速な対応をすること、そして、災害からの復旧・復興を着実にやり遂げること、さらには、この地域の子どもたちを含めた未来の担い手候補の皆さんに「選ばれるまち」として、まちの魅力を高めることであると認識しております。

これまで「声を力に。」を念頭に行動してまいりました。これからもこの原点を忘れることなく、新たなデジタル技術などのイノベーションを取り入れながら、このまちの未来を市民の皆さんと「共に創って」いきます。

岡原文彰



共に創る

プロフィール

岡原文彰 Okahara Fumiaki

S45 生まれ

宇和津小学校、城東中学校、宇和島東高等学校

松山大学法学部に進学、卒業

その後、水産会社に従事

H25～H29 宇和島市議会議員

H29～R3 宇和島市長

(血液型) A型 (身長) 190cm

(家族) 妻・長女 (体重) 100kg

(趣味) サッカー・ラグビー

おかはら文彰 後援会事務所



〒798-0060 宇和島市丸之内1丁目6番5号

TEL.0895-28-6363

http://okahara.jp/



後援会討議資料

おかはら文彰



共に創る。

無所属 51歳

共に創る。



共に創る。

3つの柱、6つの創

第一の柱

新型コロナウイルス感染症に対する迅速な対応

国、県と連携し、感染の拡大を防ぐとともに、厳しい状況に追い込まれている市民の皆さんの生活や産業に対して、迅速なサポートを実施します。

第二の柱

豪雨災害からの復旧・復興

国、県と連携し、被災された皆さんがかつての生活を取り戻すことができるよう寄り添うとともに、未だ道半ばである公共施設、農地などの復旧を着実にやり遂げ、これまで以上に活力のある創造的復興を目指します。

第三の柱

「選ばれるまち」へ

6つの「創」の実現により、まちの魅力を高めることで、地元の子どもたちはもちろん、域外の多くの方々から「選ばれるまち」を目指し、移住、交流、関係人口に繋げ、将来の担い手を確保します。

柱

創

「選ばれるまち」へ...

1 産業を創る

① 地元産品の積極的な売り込み

第一次産品はもとより、本市の優れた地元産品を、生産者、民間業者・団体、行政が一体となって、国内外に対して強力に売り込みます。

② 中小・小規模事業者をサポート

国、県の支援策への拡充や市独自の応援事業メニューの充実などにより、各産業力の底上げと事業再構築を支援します。また、若者や移住者の起業の支援により、新事業の創出を後押しします。

③ 商店街の活性化

民間活力を活用した、稼げるまちなかを目指します。

2 安全を創る

① 小学校区単位による地区防災計画の策定

自主防災組織、防災士会と連携して地区防災計画を策定し、防災に対して意識の高いまちを目指します。

② 防災センターの設置

各種災害の模擬体験から学ぶことのできる環境を整えます。

③ 事前復興計画の策定

平時から被災を想定した上での復興計画を策定し、将来の災害に備えます。

3 安心を創る

① 認知症の早期発見・早期支援

認知症検査の充実を図り、早期のサポート体制を整えます。

② 医師、看護師の確保

基幹病院を運営する責務として、医師、看護師の確保に努めます。

③ 障がい者にやさしいまちづくり

簡易スロープや筆談ボードなど、障がい者に優しい社会環境整備をサポートします。



4 人を創る

① ひとづくりを核としたまちづくり

ひとづくりの礎となる協働構想を構築し、行政のみならず、教育機関、事業者、民間団体など、オール宇和島により子どもたちを育てます。

② 子育てしやすいまちづくり

出産から子育てまで、各種手当や病児保育などのサポート体制を進化させ、どこまでも子どもたちの育つ環境に寄り添います。

③ 人間力が身につく教育環境づくり

産学官担(うまれ⇒まなび⇒そだち⇒になう)の成長過程に応じた教育環境づくり実現のため、現場の最前線で奮闘する教職員を積極的にサポートするとともに、コミュニティスクールの浸透やホリバタの活用により、地域住民が子どもたちを育てていく仕組みを推し進めます。

5 まちを創る

① 丸山運動公園、やすらぎの里、伊達博物館の再整備

体育、温泉、歴史・文化などの目的に合わせて、多くの方々に愛される施設を整備します。

② 観光の再構築

この地域でしか経験できない伊達文化やグルメなどを発信します。

③ 地域の交流拠点を整備(我が丸事業の拡充)

地域の課題を地域で解決するための交流拠点を整備します。

6 チームうわじまを創る

① 市民サービスの向上

デジタルの活用などにより、市民サービスの向上に努めます。

② 徹底的な情報発信

市民の皆さんに対して、広報誌やSNSの活用などあらゆる手段により情報を伝えるとともに、報道機関に対しても積極的に発信します。

③ 常にシティセールス

市の魅力を徹底的に売り込み、選ばれるまちへと繋がります。

